

私大環協ニュース

私立大学環境保全協議会

第74号 2023.6

Environmental Protection Association of Private Universities NEWS

私立大学環境保全協議会
Environmental Protection Association of Private Universities

第39回総会・研修研究会

2023
3/16木 17金 講演会
(オンサイト・オンライン・オンデマンド)
グループ討議(オンサイト・オンライン)

オンサイト会場 青山学院大学相模原キャンパス
〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺 5-10-1
<https://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/access.html>

3/16 プログラム	3/17 プログラム
＜総会＞ 13:00～13:30 オンサイト・オンライン開催 ＜研修研究会＞ 1. 開会挨拶 13:40～13:50 2. 開催挨拶 13:50～14:00 3. 特別講演 14:00～14:50 「日本のエネルギー需給動向と今後の課題」 青山学院大学 社会情報学部教授 石田 博之 ◇休憩 (10分)◇ 4. 研修講演 15:00～15:50 「職場環境とウェルビーイング」 慶徳義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授 前野 隆司 ◇デモ展示見学会・移動 (20分)◇ 5. グループ討議 16:10～17:10 I: 「SDGs 未来都市と大学の役割を考える (横浜市)」 II: 「新たな化学物質規制体系に向けた対応について」 III: 「ウェルビーイングの観点から考える大学経営、施設の整備・維持管理」 6. デモ展示見学会および懇話のひととき 17:20～18:00	1. グループ討議 9:30～11:30 ◇デモ展示見学会・移動 (20分)◇ 2. 話題提供: 11:50～12:20 「環境保全と安全衛生に関する環境安全センターの取り組み」 青山学院大学 理工学部教授 環境安全センター 副所長 武内 亮 3. 開会挨拶 12:20～12:30 4. キャンパス見学会 13:30～14:30 研修研究会は、オンサイトでの対面参加、オンライン (Zoom ウェビナー配信)、オンデマンドのハイブリッド形式で開催いたします。オンサイトではデモ展示やキャンパス見学会なども予定します。ご都合の良い形式でご参加ください。 最新情報はこちら 研修研究会に関する最新の情報やお申込はホームページをご確認ください。 https://www.shidaikankyo.jp/ 22年12月リニューアル!



第39回総会・研修研究会 (2023年3月16日17日青山学院大学相模原キャンパス:ハイブリッド開催)



グループ討議(オンサイト・ライブ)会場の様子



講演(オンサイト・ライブ・オンデマンド)会場の様子

CONTENTS

環境ニュース ● 津田洋子先生インタビュー	2
会員校紹介 ● 京都産業大学	4
会員校紹介 ● 東邦大学	5
賛助会員紹介 ● 三建設備工業株式会社	6
賛助会員紹介 ● 富士フイルム和光純薬株式会社	7
コラム、事務局だより	8

帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 津田洋子 講師インタビュー



目に見えないものが 鮮明に見える驚きに心が揺さぶられる

コロナ禍を境にして身近な言葉となった「公衆衛生」。この公衆衛生の1領域である産業環境保健学の専門家である津田洋子先生は、帝京大学大学院公衆衛生学研究科で教壇に立つ傍ら、同大学の衛生工学衛生管理者として環境改善にも取り組んでいます。30年以上公衆衛生の最前線で活躍する津田先生ですが、最初から産業環境保健学の分野を目指していたわけではありません。当時をこう振り返ります。

「手に職がつく資格を取得、自宅から近い、学力的に問題ない。そして、勉強漬けでなくキャンパスライフを楽しめそう。これらを満たしてくれた学部が、北里大学の衛生学部産業衛生学科でした。いま思い返してみると、税理士の父親と、私が生まれる少し前まで中学で化学を教えていた母親を見て育った影響からか、手に職を持っていれば、どうにか生きていける。そうした価値観が自然と醸成されていたのかもしれない」

入学当初は関心の薄かった産業衛生の世界。しかし、講義を受けているうちに、産業衛生の沼にどっぷりと浸かっていったそうです。

「目の前にある、白米のおにぎり。もし、指に怪我をした人が傷口の化膿に気が付かずにおにぎりを握って、その人の手に黄色ブドウ球菌が付着していれば、味は良くても食中毒を招く恐れがあります。綺麗に見える水に毒性を持つトリクロロエチレンがどの程度入っているのか……など、その状態は見た目からは知る術がありません。しかし、分析機器で測定をするとそれらの状態が鮮明に見えるのです。そして、不衛生な状態の仕組みやメカニズムが解かれれば、防ぐ術を導くことができるし、防ぐ術を企業に伝えることで、会社で働く人たちの健康を守ることに繋がります。この好循環を生む仕組みを構築するお手伝いができる。ここに面白味とやりがいをとても覚えました」

北里大学を卒業した津田先生は、保護具を製造する企業に新卒で入社します。ここで12年ほど働いた後、信州大学医学系研究科の博士課程へ進学。化学物質の生態影響やばく露調査などの研究や、同大学の助教を経験したのちに、保険会社のシンクタンクを経て、5年前から現在の帝京大学に籍を置いています。企業で働く面白さを次のように話します。

「母校の北里大学が『叡智と実践』を建学の精神と掲げています。私も同様に、学術的な知見や研究結果を社会に還元したいと考えています。特にシンクタンクではコンサルタント業務も担っていたので、学術的なエビデンスとセットにして実践的な実務提案をしつつ、企業が組織内に安全衛生体制を実装できるまで伴走することができたのは有意義な経験でした。組織人と研究者の2つの視点を持つことで、双方の齟齬を小さくはできますが、アカデミックな知見の蓄積は大学で研究に没

頭される研究者がいればこそです。みんなちがって、みんないい。この点を忘れてはいけないのだと思います」

公衆衛生の施策一つとっても、様々な視点でアプローチするからこそ、独走を防ぎ、最適解を導くことができるのです。

日本でたった70人！ 世界で戦える認定オキュペイショナルハイ ジニスト育成と普及が急務

津田先生は現在、2つの柱を軸にして活動しています。その一つが、高等教育機関における化学物質管理のガイドラインの作成です。このガイドライン作成に至る発端となったのが、2022年5月に公布された労働安全衛生に関する省令の一部改正です。この報せを耳にした時、津田先生は頭を悩ませたと言います。

「これまで企業は法律に規定された化学物質の管理だけが必須だったのですが、この省令改正によって、『労働者の健康を自律的に守る』という視点がより強くなりました。これにより、企業は、とても多くの種類の化学物質のリスク管理をしなければならなくなりました。企業であれば、ビジネスで使用する特定の化学物質の管理とリスクマネジメントをすれば済みますが、大学ではそうはいきません。実験や研究の為に、多種多様な化学物質を少量ずつ使用するケースは少なくないし、実験によって扱う物質も変わります。研究で使う試薬すべてのリスクアセスメントは、正直相当にハードルが高いです」

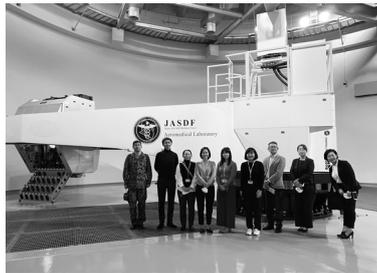
そこで、高等教育機関全体のガイドラインの作成に乗り出します。その第一歩として、国立大学協会から今年の3月にマニュアルが発表されました。このマニュアルは、国立大学協会の4つの部会によって作成されましたが、津田先生はその1つに所属していて、そこでは黒子役に徹しているそう。高等教育機関向けのガイドライン作成の重要性とともに、化学物質管理に関する学生への教育の大切さをこう話します。

「化学物質を扱う学生は、労働者でないのに、労働安全衛生法の対象外です。でも、大学では学生たちも化学物質を扱います。だからこそ、化学物質の有害性や管理の仕方を伝え、「正しく怖がる」ことを理解してもらうことが重要です。こうした教育を通して、化学物質の管理の大切さを理解した人材を社会に輩出することは教育機関にしかできません。将来的には彼らが、企業の労働安全の仕組みを構築し、「人が健康に働き続けられる社会」を創る一助になってくれることを期待しています」

津田先生が力を入れているもう一つの柱が、オキュペイショナルハイジニスト(COH)の普及と能力の向上です。オキュペイショナルハイジニストとは、事業場における有害要因を見える化し管理する専門家で、化学物質等の有害作業の管理も担い

ます。前述の省令改正によって企業にも自立的な化学物質のリスクマネジメントが求められるようになったことで、彼らの存在に今、熱視線が注がれていると言えます。

「これまで日本の労働衛生は、『作業環境管理』『作業管理』『健康管理』の3管理を軸に行われてきましたが、ビジネスがグローバル化して世界基準での労働安全衛生が求められるようになりつつあります。これも、オキュベシヨナルハイジニストが注目され始めている大きな理由です。とはいえ、日本には認定オキュベシヨナルハイジニストは70名ほどしかおらず、認知度も圧倒的に足りません。そこで、オキュベシヨナルハイジニストの普及と能力の向上場としてCOH研究会を立ち上げました。私はここの世話人をしています。具体的な活動としては、月1回に全国にいるオキュベシヨナルハイジニストたちと勉強会を開催しています。各々経験を共有して知見を蓄積しながら、人的なネットワークを構築しています。当面の目標としては、アライアンスという形で緩やかな繋がりを作り、オキュベシヨナルハイジニストとしての成長を第一とした活動を行っていきたくと考えています」



学外実習にて(1)



学外実習にて(2)

日本のオキュベシヨナルハイジニストたちが多くの企業で活躍する姿を見るのはそう遠くないのかもしれない。

日本のオキュベシヨナルハイジニストたちが多くの企業で活躍する姿を見るのはそう遠くないのかもしれない。

尽きぬ夢。初等教育から公衆衛生の世界に触れ、軸を持った子供を育む社会に

津田先生は、帝京大学大学院では「産業環境保健実習」の講義を担当しています。ここでは、「小学5年生を想定。福島第一原子力発電所の排水で問題となっているトリチウム水を題材にイベントを開催」のような演習テーマで、グループでイベントを計画して発表するなど、社会で即戦力となる実践型の実習が展開されています。卒院生からの信頼も厚く、新型コロナウイルスによるパンデミック禍には、福島県双葉郡浪江町にある道の駅に関わる卒院生から感性症対策の支援依頼がきたそうです。



学外実習にて(3)

「導線を踏まえた手指消毒の置き場、空気の流れに合わせた換気の方法など、具体的な感染対策を卒院生、学生と一緒に考えました。これがきっかけとなり、道の駅の駅長会から感染対策の講義のオファーや、道の駅を管轄する国土交



福島第一原子力発電所見学



学生共同参加による学内感染対策

通省から『道の駅で感染者が発生した時のBCP対策』の作成依頼が来るまでに発展しました。また、浪江町に住む人たちは、震災復興に向けてそれぞれの想いを抱えています。ですが、その思いをうまく形にできず、まとまらないこともあります。そこで、卒院生の活動支援を兼ねて、住民たちへのインタビューを通して気持ちの棚卸しをお手伝いしました。今年に一度、院生と現地を訪れています」

衛生管理を越えて地域創生の活動にまで活

動の場を広げている津田先生。在学生への期待をこう語ります。

「卒業後は、公衆衛生専門職学位ホルダーとして、人々の健康を守るために公衆衛生の現場と向き合います。公衆衛生は全年齢を対象とするので、どの世代の人たちに対しても理解が求められます。特定の分野を極めながらも、その他の幅広いジャンルに対しても深い知見を持った想像力と柔軟性に富んだ厚みのある人材を目指して欲しいと思っています。そして、知識を与える専門家でなく、良好な組織運営ができるように仕組み化して、企業が自走できるようになるまで伴走する。そんな専門家に育ってもらえたら嬉しいです」

続けて、今後の自身の取り組みに関してこう話します。

「例えば、N95とDS2のマスク。日本ではN95は医療の現場で、DS2は産業分野で使用されるように思われていますが、性能はほぼ同等です。相互に補い合えるような好循環を作れたらと考えています。また、これらのマスクは正しく着用しないとウイルスや細菌から体を守ることはできません。頭では理解していても、実際の現場で正しく着用できている人はあまり多くないのが現状です。医療の現場では医療従事者の命に直結する場合がありますし、産業界では長い間に有害な粉じんを吸い込むことで呼吸器疾患になる場合もあります。正しく着用することの大切さを伝えてゆけたらと思っています。新型コロナウイルスのパンデミックで、公衆衛生という言葉そのものが世間でも使われるほど浸透しました。何ができて、何ができなかったのか。しっかりと棚卸しして、もしもの時にそれらをどう活かすのか。そうした議論を交わしていきたいです」

日本の認定オキュベシヨナルハイジニストを世界基準に底上げするのももちろん、初等教育から“安心・安全な公衆衛生”の考え方に触れられるような教育システムを構築したいと、津田先生は次なる夢に向かっていきます。

インタビューを終えて

中学生の頃からヴァイオリンを習い、大学からはヴァイオリンを弾くようになった津田先生。以前はオーケストラの一員でしたが、5年ほど前からはソロでも弾くように。曲のジャンルにはこだわらず気の赴くままに弾くのが津田流。また、旅行好きな津田先生が行先を決めて、電車好きのパートナーが移動方法を担当する。お気に入りの休日の過ごし方です。

京都産業大学



京都産業大学 全景

大学紹介

京都産業大学は、1965(昭和40)年に経済学部・理学部の2学部をもって京都市・上賀茂に創設しました。創設者(学祖)で宇宙物理学者の荒木俊馬は、「建学の精神」において、「将来の社会を担って立つ人材の育成」が京都産業大学の使命であることを掲げました。歴代の学長は、この建学の精神を根幹に、時々国内外の情勢や社会の要請等を踏まえた「教学の理念」を確立のうえ、時代に応じた教育研究体制及びキャンパスの整備を推し進めてきました。

2015(平成27)年に創立50周年を迎え、これを機に、2030年度までの15年にわたる中長期事業計画『神山STYLE2030』を策定しました。また、大学名の「産業」を、本学独自の考えに由来して、新しい業(わざ)をむすび、新しいものを産み出す「むすびわざ」と読みとき、あるべき大学像「むすんで、うみだす」、育成すべき学生像「むすぶ人」をスローガンとして掲げました。以来、建学の精神の実現に向け、すべての学部・研究科及び学生が広大な「神山キャンパス」に集結する「一拠点総合大学」という特色を活かし、領域を越えて多様な人や知識をむすび、そこから新しい価値をうみだす大学づくりとそのための不断の大学改革に、学長のリーダーシップの下、全学を挙げて取り組んでいます。

現在では、文系・理系10学部10研究科をそろえ、約15,000人の学生を擁するに至っています。また、卒業生数は、約16万人を超え、様々な社会や分野で活躍しています。

環境への取り組み

学校法人全体として年間約10,000tの二酸化炭素を排出しており、カーボンニュートラル達成のため、今後より一層の二酸化炭素の排出抑制を目指します。具体的な中長期の取り組みとしては、太陽光パネルの設置や高効率の空調設備への更新、LED照明設備への更新を推進し更なる省エネ化を推進します。併せて、大学構成員の省エネ意識の向上や運用方針を決める省エネルギー推進委員会を設置し、日々の省エネの推進啓発等に取り組んでいます。

昨年度は、再エネアグリゲーション実証事業(経産省)を通じた蓄電池(500kw)の設置を行っており、実証実験を通じてピークカットのテスト運用を開始しています。

2024(令和6)年度からはDR(デマンドレスポンス)の利用を含め電力容量市場、需給調整市場に蓄電池の電力を提供予定です。

加えて、防災への対応として、地域との共生を目指す大学は、未曾有の災害においては、各施設が避難所として機能を必然的に果たす必要から、空調設備の更新にあたり一部の建物では、停電時に自立運転可能なGHP空調機を導入し、停電時でもガス供給が確保されていれば、空調設備が稼働できる環境を整えました。これについては、防災機能の強化を図りながらも、都市ガス・LPガスに変わる再生可能エネルギーの供給が急務と考えています。



導入蓄電池

東邦大学



自然豊かな習志野キャンパス

大学紹介

東邦大学は、1925年に額田豊・晋兄弟により、建学の精神「自然・生命・人間」のもと創立された帝国女子医学専門学校を前身とする。現在は医学部・薬学部・理学部・看護学部・健康科学部の5学部を擁する自然科学系総合大学として、高い倫理観と豊かな人間性を持ち、自然と生命の科学で社会に貢献できる人材育成を行っている。2025年に創立100周年を迎えるにあたり、新たなステージに進むべく、国際的にも互換性のある魅力的なカリキュラムの構築に力を入れ、各分野の研究を深め発展をめざして取り組んでいる。

自然や防災に配慮したキャンパスや病院

2013年より、大学近隣の自治体および大学間と包括協定を締結し(現時点で6自治体、3大学)、健康、教育、研究はもとより、防災や環境保全、国際交流、地域産業の振興など多機能型の地域拠点としての取り組みを進めてきた。特に、近年多発してい



大橋病院の外観

る自然災害時の避難場所の設置、あるいは避難場所における感染症対策および自治体の職員の人材育成などを大田区と連携、協力し、積極的に取り組んでおり、この一環として、防災やカーボンニュートラルに関する情報発信を強化することを検討している。

理学部におけるSDGsの取り組み

第一に、学生と地域企業が連携して取り組む環境活動を紹介する。近年の活動の一つとして、ウォールアートが挙げられる。

千葉県内の各種団体のSDGsに関する取り組みを紹介し、SDGsの普及啓発を行うことを目的としており、理学部生命圏環境科学科の学生が中心となって制作した。また、習志野キャンパスを拠点に環境活動に取り組む学生団体である東邦Ecolutionが、そろばん塾を経営する株式会社インド、千葉商科大学の学生団体 SONEと連携し、SDGsすごろくを作成した。すごろくはそろばん塾の生徒を対象に約20,000枚配布され、SDGsの意識向上の取り組みに貢献することができた。

第二に研究分野では、白井市や印西市と2023年に個別協定を締結し、生物多様性の保全に関する里山の保全、再生活動や生物調査活動などを行っている。その他、高温で生育できる大腸菌を使って、新しいバイオプラスチックの生産に向けた研究を進めている。

2022年度からは、理学部において「理学部SDGs推進センター」を立ち上げ、学内におけるSDGsの取り組みを取りまとめ、外部への発信を行っている。持続可能な社会づくりにおいて、建学の精神のもと、大学の強みを活かした活動を今後も継続していきたいと考えている。



ウォールアートの取り組み

賛助会員紹介

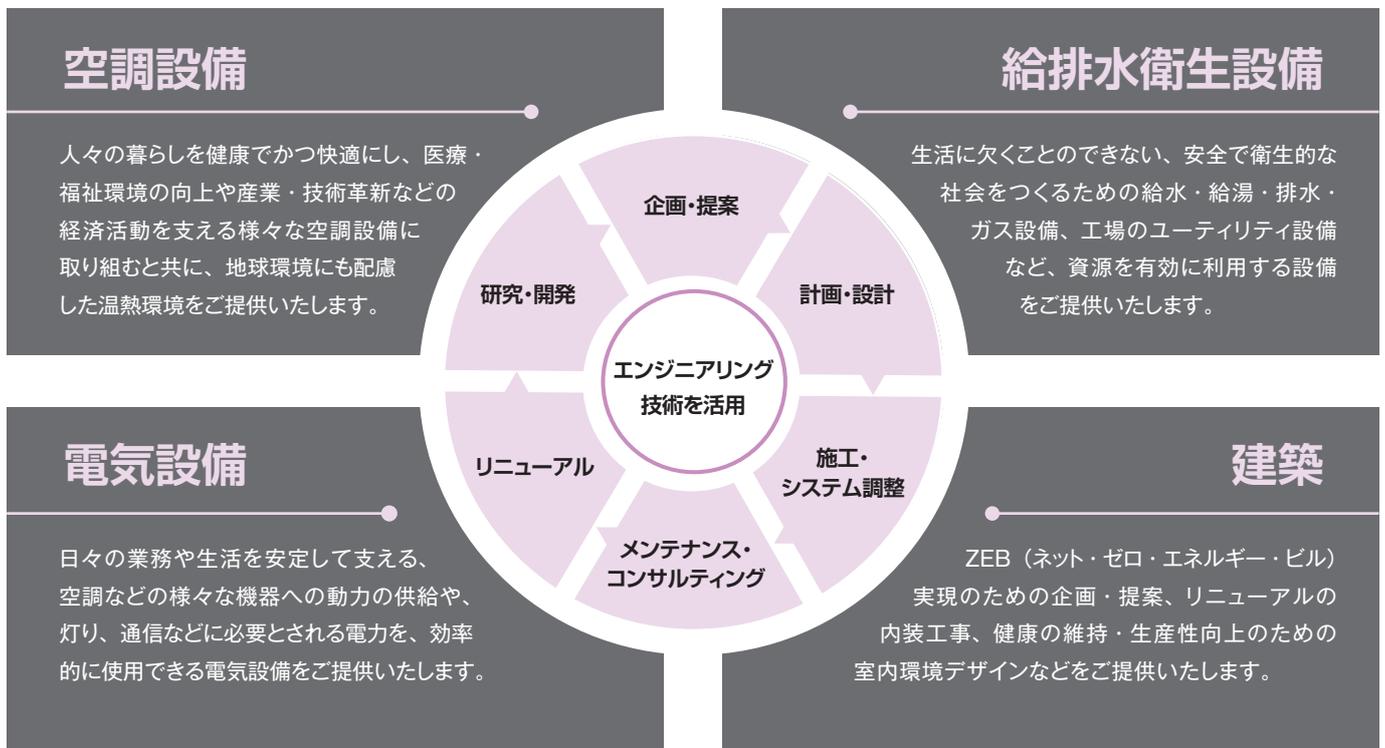
三建設備工業株式会社



三建設備工業は、空調・衛生・電気・建築を通じて、人々に快適で安全な空間を提供している企業です。そして、地球環境のために建築物のエネルギーを無駄なく使う建築設備の省エネ技術を追求。多様なZEBの実現に挑戦し続けています。空気と水の環境創造企業として長年培ってきた技術力をもとに、カーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

～建物のライフサイクルをトータルサポート～

お客様の建物の企画・提案からスタートし、計画、設計、施工、システム調整、メンテナンス、リニューアルまで、建物のライフサイクルにおける様々な局面でエンジニアリング技術を活かしたトータルサポートをご提供しています。



空気と水の環境創造企業
三建設備工業



本社 〒104-0033 東京都中央区新川1-17-21
茅場町ファーストビル2階
TEL:03-6280-2561 URL:<https://skk.jp/>



次の科学のチカラとなり、人々の源を創造する

富士フイルム和光純薬は、2022年6月、創立100周年を迎えました。「研究者の方々のお役に立ちたい」という創業の想いのもと、総合試薬メーカーとして、先進の技術開発をベースに、さまざまな顧客ニーズに応える高機能・高品質な試薬・化成品・臨床検査薬を提供してきました。

富士フイルムグループでは、人々の健康に関わる「予防」「診断」「治療」の3つの領域でビジネス展開するヘルスケア事業、さまざまな産業分野で使われる材料・素材の領域でビジネス展開する高機能材料事業の2分野を成長ドライバーとして位置付けています。

当社は、長年かけて培ってきた国内の強固な研究開発・生産・販売基盤を活用すると同時に、海外への積極的な事業拡大を通じて、グループのヘルスケア事業・高機能材料事業を担う“グループの中核企業”として、事業活動を推進しています。

富士フイルムグループは、環境戦略「Green Value Climate Strategy」を新たに策定し、国際社会の喫緊の課題である気候変動への対応を強力に推進しております。具体的には、2030年度までにCO₂排出量50%削減(2019年度比)を新たに設定し、それを受けて当社も削減に向けて取り組んでいます。

当社は、次の100年も、変わらぬ創業の想いで、学術研究、産業、医療の発展への貢献を通じて、次の科学のチカラとなり、人々の源を創造していきます。



会社概要

社名：富士フイルム和光純薬株式会社
創立：1922年(大正11年) 6月
所在地：大阪市中央区道修町3丁目1番2号
事業内容：試薬、化成品ならびに
臨床検査薬の製造・販売
営業拠点：国内 11 / 海外 5
生産拠点：国内 9 / 海外 2

富士フイルム 和光純薬株式会社

本社：〒540-8605 大阪府大阪市中央区道修町3-1-2

東京本店：〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-4-1

コーポレート



試薬事業



「座右の銘」をご存知ですか？

私には常に自己と行動を共にしながら喜びや悲しみを分かち合い、時には助言や叱咤激励してくれる生涯の友人がいる。このかけがえのない友人は「もう一人の自分」である。もう一人の自分は「座右の銘」のみならず「座右の銘」も大切にしながら論してくれる。両者の言葉の由来を調べると、椅子に座りながら勉強や読書をする際に右側に自分の戒めを書き、左側に大切な書物をおくという説がある。私の座右の銘は「人に優しく自分に厳しく」である。ここで、生きていく上で大切にしている言葉の意味やニュアンスは時代によって変わることも魅力的であると教えてくれたのはもう一人の自分である。そこで、座右の銘として「成長過程で変わりうるもの」についてもう一人の自分と以下の会話をしている。

20～30歳代：自分の将来や行動をもう一人の自分に一方的に語っていた時期である。仕事の質と量をいかにこなすかを目標として邁進することが喜びであった。40～50歳代：人生にはゆとりが重要

だともう一人の自分に諭された時期である。市民マラソンへの挑戦で心と体がリフレッシュした。60歳以降：命の大切さをもう一人の自分に叱咤されている時期である。三大疾患(心筋梗塞、がん、脳梗塞)を患い健康への過信、生活習慣の認識不足を痛感させられた。そして、古希を迎えた現在はもう一人の自分と科学技術の進歩や地方の伝統文化の魅力について楽しい会話をしている。

私大環協の宝は人である。人が集まる場所には様々な意見が寄せられ、専門分野や立場により考え方も異なってくる。環境保全の原点は人間の魅力を通じてお互いを尊敬しあうことである。座右の銘は前向きなゆとりがあればいつでも変えられ、他者から謙虚に物事を学ぶことができる。座右の銘についてもう一人の自分といつも会話をしながら周囲の人に優しくなれば環境にも優しくなれる。

私立大学環境保全協議会 顧問 尾上 薫
(化学工学会フェロー、元千葉工業大学教授)

事務局だより

第36回 夏期研修研究会ご案内

【オンライン会場】 創価大学
〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
TEL 042-691-2211(代表)



【研修研究会】
(オンライン・オンサイト一律 参加費:1名10,000円)
【第1日】 2023年8月31日(木)

- 1. 開会挨拶 13:00～13:10
- 2. 開催校挨拶 13:10～13:20
- 3. 特別講演 13:20～14:10
 <デモ展示見学・休憩 10分>
- 4. 講演 14:20～15:10
 <デモ展示見学・休憩 20分>
- 5. 話題提供 15:30～16:20
- 6. 講演総括 16:20～16:30
 <移動 10分>
- 7. グループ討議準備 16:40～17:20
 <移動 10分>
- 8. 情報交換会(立食) 17:30～19:00

【第2日】 2023年9月1日(金)

- 1. グループ討議 9:30～12:10
 ※I～IIIグループから一つ選択してご参加ください。

I：教育と連携

「教育と産学の連携(創価大学丸田ゼミの挑戦)」
地域の企業や NPO法人と連携し、吟醸酒製造過程で廃棄される米粉から食品やバイオマス製品の開発を行っている丸田ゼミの活動を通じて、産学連携のための工夫、教育と連携のあり方、地域の活性化や SDGsの実現に向けての大学の役割を考えます。

II：化学物質

「新たな化学物質規制体系に向けた対応について」
前回までのグループ討議で取り上げた、化学物質規制体系の見直しについて、大学での取組み事例等、最新情報をもとに改めて取り上げ、複数のグループに分かれて、テーマに応じた意見交換などを行うことを予定しています。

III：施設・設備

「大学におけるESG経営とこれからの施設整備計画・環境配慮」

大学施設職員が日頃感じている疑問や課題について経営から施設維持管理まで幅広い視点で討議を行い、参加者や各分野でご活躍のコーディネーターの皆様からの情報などから、問題解決のヒントを探ります。

<移動・休憩 20分>

- 2. キャンパス見学会 12:30～13:30

講演会は、オンラインならびにオンラインライブ配信(Zoomウェビナー利用を予定)でのご参加が可能です。また、後日オンデマンド配信も予定しております(要事前申し込み)。グループ討議につきましては、対面でのご参加を基本といたしますが、オンラインでのご参加についても検討しております。

情報交換会及びキャンパス見学会はオンサイトのみとなります。講演会・グループ討議の詳細は、開催案内(7月6日配信予定)にてお知らせいたします。プログラムは変更となる可能性がありますので、最新の情報を協議会ホームページにてご確認ください。なお、講演会来場者への資料配布は行いませんので、事前配信資料をご利用ください。

私大環協ニュース

第74号 2023年6月発行

発行・編集



私立大学環境保全協議会
Environmental Protection Association of Private Universities

〒169-8555

東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学環境保全センター内

TEL & FAX 03-5273-9605

印刷 (株)研恒社

